

特集「座談会：レ・コード館の価値と未来」

～レ・コード館に関わる人たちとの座談会①（町外編）～

これまで3回にわたり、開館20周年を迎えたレ・コード館について取り上げてきました。

今回は、レ・コード館と関わり深い方々4名にお集まりいただき、「レコード」や「レ・コード館」についての意見交換をしました。

レコードの魅力やレ・コード館の可能性などについて、約3時間にわたりお話をいただきましたので、その内容をご紹介します。

さて、新冠の外から見た「レ・コード館」は、どのように映っているのでしょうか。

レコード人気が再燃？

阿部 海外の話になりますが、アメリカでは、レコードの生産枚数が2005年は100万枚程度だったのが、今は800万枚と大幅に増加しているようです。

若者がレコードを買う理由としては、レコードの音が良いということもありますが、流行りの本を持ち歩くのと同じように、レコードジャケットを抱えて歩くのが、ブームになっているようです。

また、アメリカでは、2008年から、年に1度、レコードを売り買いくる「レコード・ストア・デイ」が開かれており、日本でも、2013年からレコード市が開かれています。

最近では、日本の若いミュージシャンも、レコードを発売するようになり、少しずつですが、確実に人気が出てきていると思います。

ミホコ 私は、2000年にアメリカに渡りましたが、当時は、既にCDが主流でレコードは、マニアの趣味という感じがありました。

中古レコード店もポストン

にはほとんど無く、ニューヨークだけでしたので、少し状況が変わってきたんですね。

市川 札幌にいる知り合いも、中古レコードの相場が上がっていると話していました。

坂本 日本でも、東洋化成株式会社さんが、レコードの生産を本格的に始めたり、11月3日をレコードの日としてイベントを企画するなど、新しい動きがありますね。

出張レコードコンサート

坂本 札幌資料館では、レ・コード館からレコードをお借りして、年に2回、出張レコードコンサートを催しておりますが、スタッフも含め、皆、レコードが聴けることを楽しみにしています。

最近では、プレーヤーを持つ人が少ないこともあり、レコード好きな人は何日も通ったり、レコード音楽を楽しみながら、じっくりとジャケットを見たりするお客様もいます。

どの様な曲が人気ですか？

坂本 今年は、美空ひばりさんと石原裕次郎さんの特集をしました。が、美空ひばりさんは、非常に人気でした。有名な曲はもちろんですが、あまり知られていない曲も、皆、興味深そうに聴いていました。以前、レコード大賞受賞曲の特集やご当地ソング特集なども企画しましたが、これはあまり人気がありませんでした。（笑）

SPレコードもありません。ミュージアムで行う蓄音機コンサートでは、

美空ひばりの幼少期のSPレコードをかけたります。ミュージアムでも蓄音機コンサートを聞きま

したが、とても素晴らしかったです。モノラルですが、音圧が高くて、良い音だと感じました。

時代と音楽は繋がっています。そういう意味で、レ・コード館で、当時の蓄音機やプレーヤーで聴けるということは、当時の記憶、記録を守るという意味でもとても重要であるし、意義があることだと思います。

同じ北海道民として誇りに思いますし、世界中にも誇れる施設であると思います。

レ・コード館の魅力

ミホコ ミュージアムに、スミソニアン博物館と新冠にのみ現存する、ベルが発明した蓄音機がありますよね？

ミュージアムで展示物を見るまで知りませんでした。これは、本当に凄いことだと思います。

スミソニアン博物館は、

映画「ナイトミュージアム2」の舞台となった、アメリカでも一番の博物館ですからね。ミホコ レ・コード館は、清掃が行き届いていて、いつ訪れても気持ちが良い施設です。町民ホールも色々配慮されていて、札幌の芸術の森に次いで好きな施設です。

難点としては、たまにしか行かない自分にとっては、

施設全体が曖昧というか、少し分りづらく、ミュージアムやレコードの試聴コーナーなど、いつ、どのように利用すればよいか迷ってしまいます。

ミュージアムも解説が加われば、魅力がもっと伝わると思うし、あの素晴らしい音響システムが組み込まれているレ・コードホールも、もっともっと活用しても良いのではないかと感じます。

阿部 昔は、ミュージアムとレ・コードホールを50分かけて回るツアーがありましたよね？

ミホコ 以前、ポストンから来たアーティストたちと一緒に、ミュージアムでロウ管レコードや竹針での蓄音機コンサートを聴き、レ・コードホールでレコードを聴きましたが、あのツアーは本当に素晴らしく、メンバーもとても喜んでいました。

職員配置の都合や来館者の減少などで、サービスの維持も大変だと思えますが、あれだけ魅力が詰まっている施設なので、その価値をもっと伝える方法があれば良いですね。

アナログ回帰

市川 皆さん、昔、ラジオ放送をカセットに録音して聞いたりする「エアチェック」をやりませんでしたか？全員 懐かしい。ありましたね！



レ・コード館ジュニアジャズバンド 特別講師 阿部 裕一
レ・コード館とのつながり
→ジュニアジャズバンド結成以来、バンドへの指導をいただいている。

レコードの音

阿部 先日、レコードでマイケル・ジャクソンの曲を耳にしましたが、耳が疲れないし、明らかにCDとは音が違うと感じました。

市川 自分は小さいころからレコードを聴いており、18歳の頃にCDが登場しましたが、自分の耳もレコードの音に慣れていると感じます。

CDの音は硬い感じがかり、レコードのほうが温かみがある気がします。

阿部 レ・コード館のレ・コードホールでCDを聴くとよく分りますが、CDは全ての音が克明に聞こえ、レコードは、そこまで鮮明ではないけれど、必要な音だけが聴こえてくるように感じます。

テレビに置き換えると、CDは4K画像で、全てが全部くっきり見える感じで、レコードは、必要な部分だけ鮮明に見える感じです。

レ・コードホールで、ビートルズのレット・イット・ビーを聞いたとき、周囲の余計な音は聞こえないけれど、4人がどこで、どの様に演奏しているかが鮮明に伝わってきました。

これがCDなどのデジタル音源だと、スタジオの壁の色まで見えてしまう感じで、聴いていて疲れてしまうのだと思います。

当時の機械で聴く、当時の音

市川 最近、手元にあったVHSをDVDにダビングもらいましたが、画質が荒くなってしまい、想像していたようにはでき上がりませんでした。特に、DVDにしたものを大画面テレビで見ると全くダメでした。

VHSテープの映像は、VHSプレーヤーを使い、20インチのテレビで見ることが一番たどり着きました。

SPレコードを、当時の再生機である「蓄音機」で聴くと、温かみのある良い音がありますが、その次に登場したLPレコードのシステムで聴くと、アンプがSPレコードのノイズ（雑音）まで大きくしてしまうので、SPレコードの良さが全く無くなってしまふのと似ていますね。

市川 レ・コード館では、SPレコードも聴けるんですか？



札幌資料館 館長 坂本 晴夫
レ・コード館とのつながり
→毎年、札幌資料館での出張レコードコンサートに協力いただいている。

阿部 スミソニアン博物館は、映画「ナイトミュージアム2」の舞台となった、アメリカでも一番の博物館ですからね。ミホコ レ・コード館は、清掃が行き届いていて、いつ訪れても気持ちが良い施設です。町民ホールも色々配慮されていて、札幌の芸術の森に次いで好きな施設です。



音楽家 ピアノ奏者 Mihoko
レ・コード館とのつながり
→平成22年にポストトリオのピアノ奏者として演奏をいただいた。

市川 当時、レコードが発売される前にFMで特集番組が組まれ、その番組を聴いて、レコードを買うかどうか決めていましたよね。

当時のラジオDJは、曲紹介の後に2秒くらいの空白の時間を作っていて、その間に、カセットの録音ボタンを押せるようになっていました。

雑誌も、2週間分のラジオ番組の曲が掲載されるので、そこで確認して、あと、雑誌の番組表は、切り取るとカセットに収まるサイズになっているなど、とてもよくできてました。

阿部 雑誌、見ていました。FMファンとかありましたよね。

市川 今は、ネットで簡単に音楽が手に入りますが、昔は、貸レコード店でレコードを選び、曲の分数を確認し、それに見合うカセットを選び、録音して、曲目はインデックスでレタリングしてという作業でした。録音している間は、その曲を聴きながら、ライナーノーツを読んだりするので、一つの曲に対しての思い入れが、今とは全然違うと思います。